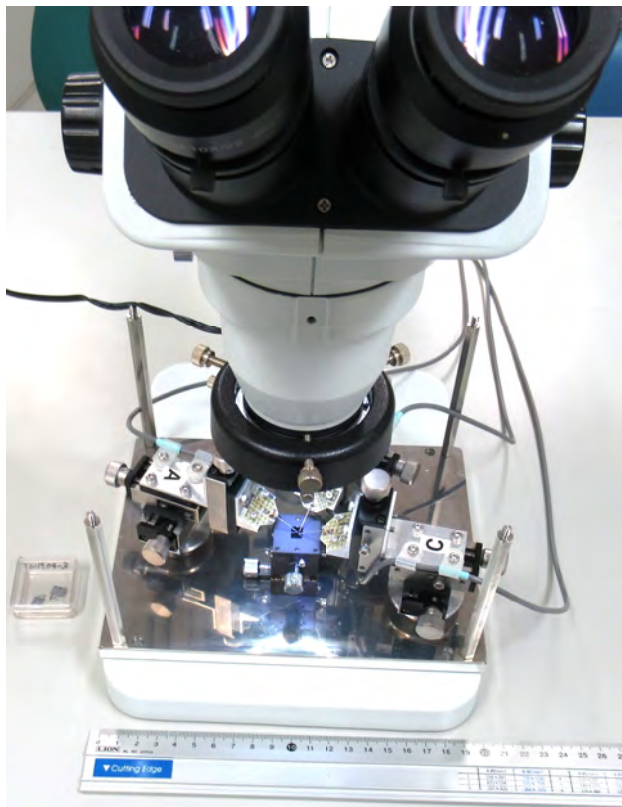


# ミニチュアプローバ MiniProber2019

designed by Toshimasa Fujisawa (2019)

(記述に誤りがある可能性がありますので注意して使ってください)

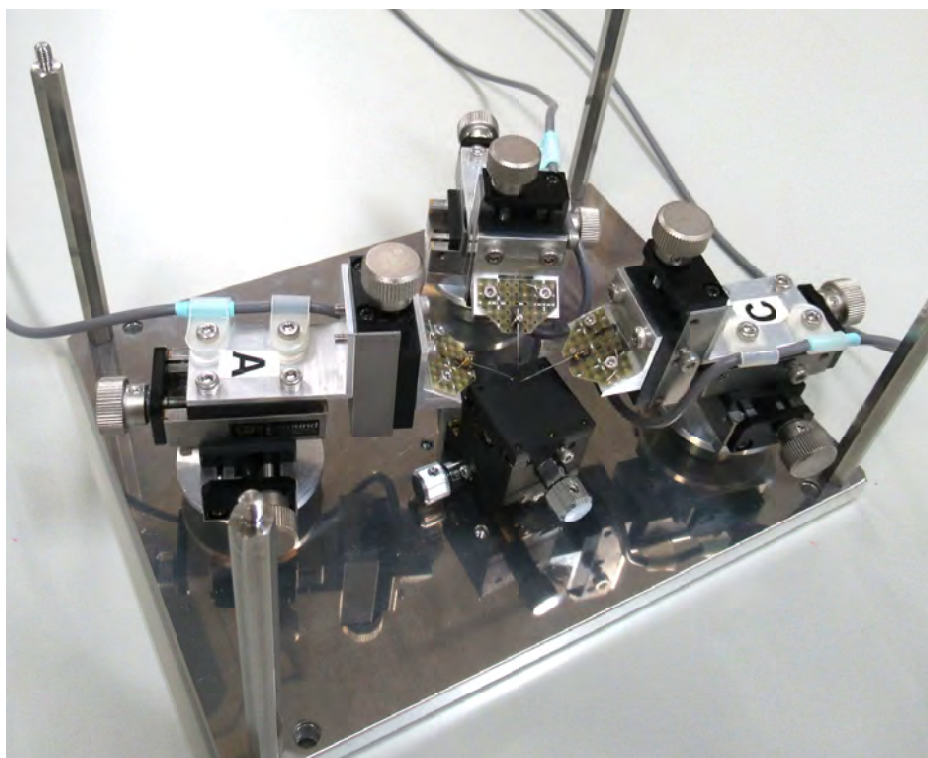


実体顕微鏡(マイクロネット株式会社製 nobita)に載せたミニチュアプローバ。

室温にて電気伝導特性を確認するためのプローバ。研究室が手狭になってきたので、実体顕微鏡に載せて使用できるコンパクトサイズで設計し、3つのプローバを搭載しました。普段は実体顕微鏡だけを使い、本プローバを載せることで電気測定が可能になる。

## 仕様

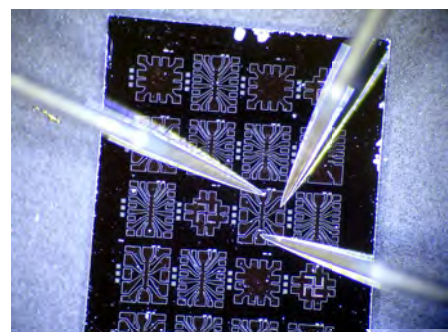
- ベースプレート: 200mm x 150mm  
(アルミt=8mm + 着磁性ステンレスt=2mm)
- 試料台(XYステージ): 台サイズ 25mm x 25mm  
XY移動量±5mm
- プローバ(XYZステージ): 高さ 87mm  
XYZ移動量±5mm  
マグネットでベースプレートに固定
- 実体顕微鏡の有効WD(試料台から顕微鏡(照明含む)までの距離)は、60mm以上あること。一般的な実体顕微鏡は80~100mm程度ある。
- 4本の支柱は、操作性(プローバ操作の際に手を添える)、安全性(プローバをガードする)、収納目的(別のスライバを載せて収納する)のために付けてある。なくても使える。



ミニチュアプローバ本体



プローバ

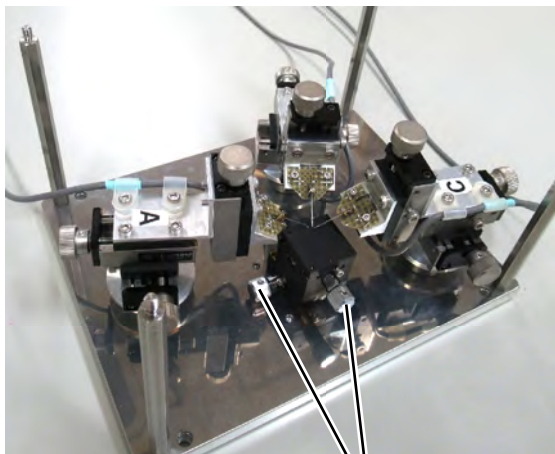


試料への接触例

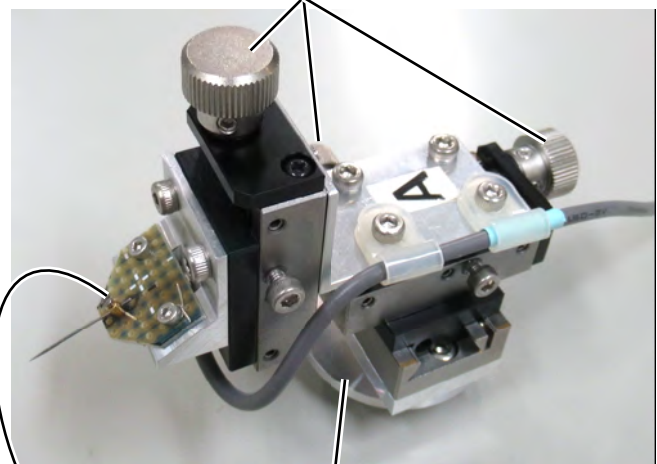
# ミニチュアプローバ MiniProber2019

## 使用方法 (詳細は説明はいらないと思うが...)

- 1: 実体顕微鏡にプローバ本体を載せる。ゴム足により、適度に固定されるはずである。試料台の中央が実体顕微鏡でよく見えるように、位置を調整する。
- 2: プローバの位置を調整する。  
マグネットを固定しているネジを緩みなく締めておくこと。  
マグネットでベースプレートに適度に固定されるはずである。  
探針に異常がないことを確認する。
- 3: 試料を試料台に載せる。
- 4: 探針を試料にアプローチする。電気測定する。



試料台XYステージ(±5mm)



プローバXYZステージ(±5mm)

マグネット固定ネジ

プローバ探針固定ネジ